縁

Kashiwazaki Best Selection

新潟県柏崎ふるさと応縁基金（ふるさと納税）

令和元年（2019年）9月発行

雨、土、太陽、
そして人の力。
今、実りの時を待つ。

「洗練された田舎」を目指しています

「善きものはまこと近きにあり」ゲーテの言葉です。柏崎には何もない、ダメだ、と騒ぐのは単なる田舎者だと思います。柏崎市は「洗練された田舎」を目指しています。

柏崎は明治時代から石油、そして原子力と日本の経済を支えるエネルギーを130年以上に渡り、誇りをもって供給してきました。今年度から「地域エネルギー会社」の設立に動き始めました。原子力の限定的な利用、洋上風力はじめ再生可能エネルギー、蓄電池、水素の利活用、安定化。地域にも首都圏にも安価な電力の供給という計画です。

量より質の時代に「少し変わる勇気」を持ちながら、身の丈に合った背伸びを繰り返していくならば、必ずその地域は洗練されたものとなり、魅力を生じ、人が集まると私は信じております。

市内山間部、お年寄りが多い地域にマイナンバーカードを使い、電話1本で住民票などを配達するサービスを始めました。また、選挙では、移動期日前投票所を開設しました。

人材の育成を最優先課題と捉え、小・中学校の指導補助員、介助員の増員を図っております。番神自然水族館、米山こども海水浴場をオープンさせました。柏崎の自然で遊んでもらいたいのです。

介護人材を大切にしています。介護予防の「コツコツ貯筋体操」が盛んです。全国でもトップクラスの参加率です。「水球のまち」として東京オリンピックに選手を送り出します。ぎおん柏崎まつり海の大花火大会は日本一を自負しております。最高品質コシヒカリ「米山プリンセス」は抜群の美味しさです。

古いもの、伝統、お年寄りを大切にし、しかしそれにとどまらず、しがみつかず、常に挑戦する人材を育てます。「洗練された田舎」を目指す柏崎を是非応援して頂きたいのです。よろしくお願いいたします。

柏崎市長

櫻井雅浩

02 ごあいさつ

04 柏崎再探訪

06 柏崎二姫物語
米山プリンセス
越後姫

08 柏崎稲作巡り
新之助
コシヒカリ

10 柏崎工芸再発見
大久保鋳物
BOSILICA・越後び～どろ
明城焼

12 柏崎ふるさと応縁基金 返礼品一覧

18 柏崎ふるさと応縁基金について

編集・執筆:下川一哉、杉江あこ(株式会社意と匠研究所)
撮影:高橋宏樹
デザイン:八島順
企画・制作・運営:株式会社カシックス
発行:柏崎市

柏崎再探訪

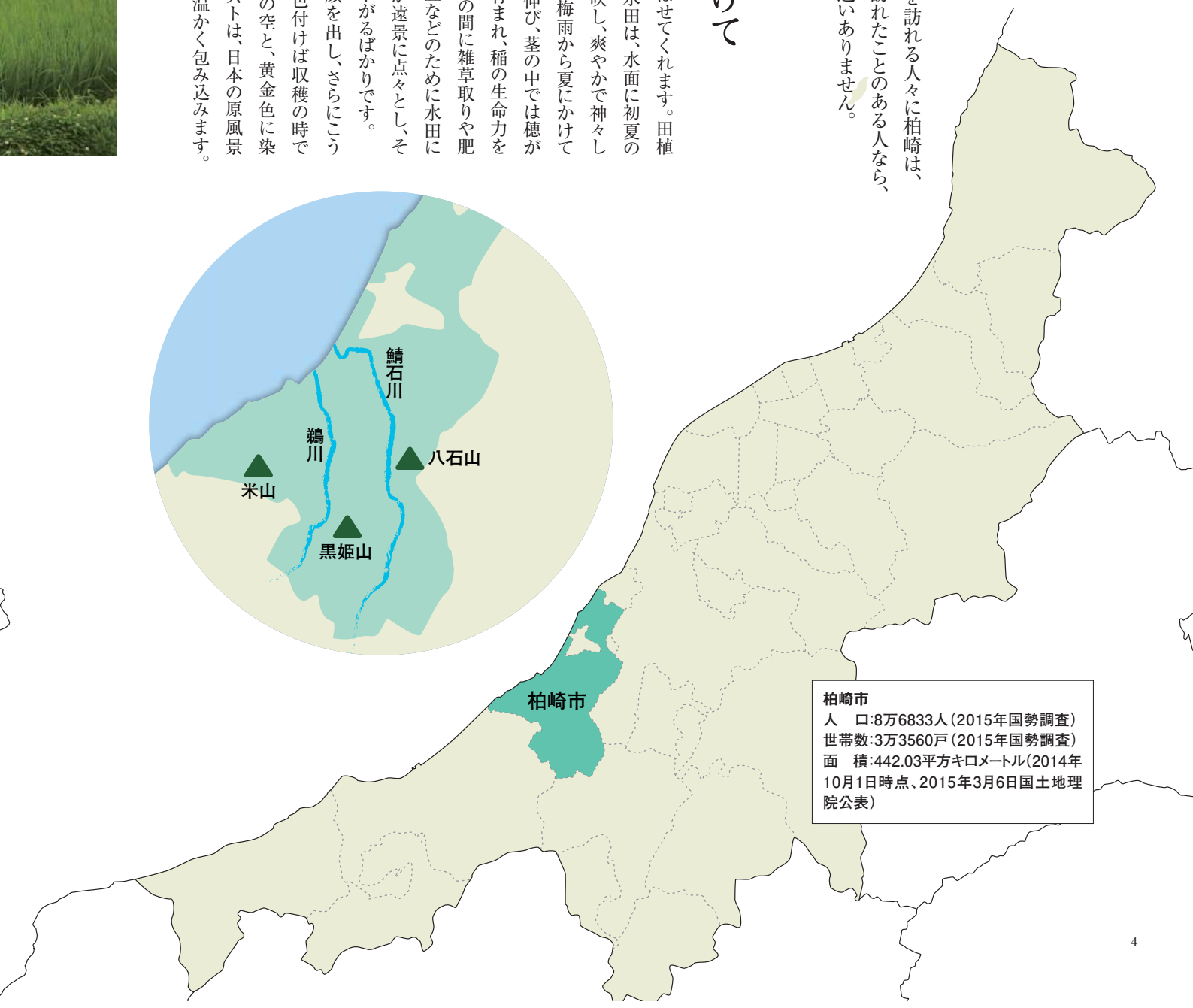
豊かな自然と風土に抱かれ、心優しい人々が住み暮らすまち。この地を訪れる人々に柏崎は、きっとそんなふうに映っているでしょう。柏崎を故郷に持つ人、柏崎を訪れたことのある人なら、目を閉じて柏崎とつぶやけば、脳裏にいろんな情景が浮かんでくるに違いありません。

厳しくも豊かな自然の恵みを受けて

柏崎は新潟県の中心からやや西部に位置し、米山、八石山、刈羽黒姫山の刈羽三山を背に約42キロメートルの海岸線で日本海を臨んでいます。冬は寒く、風が強く吹きますが、暖かな春が訪れ、短い夏を経て秋が訪れると、自然はこの地に実りをもたらしてくれます。特に山間部や鵜川、鯖石川などの清らかな河川流域に広がる水田では稲作が営まれ、「コシヒカリ」をはじめ、新潟県産ブランド米「新之助」や各種銘柄米、さらに柏崎市認証米「米山プリンセス」が栽培されています。

柏崎の稲作はおいしい米として味覚を喜ばせるだけでなく、この地の風土も形成し、訪れる人々の目も喜ばせてくれます。田植えを終えたばかりの水田は、水面に初夏の青空や遠くの山々を映し、爽やかで神々しい景色を披露します。梅雨から夏にかけての水田では、稲の葉が伸び、茎の中では穂が小さな赤子のように育まれ、稲の生命力を強く感じさせます。この間に雑草取りや肥料撒き、稲の生育調査などのために水田に入る農家の方々の影が遠景に点々とし、その真摯な姿には頭が下がるばかりです。

秋が訪れ、稲穂が顔を出し、さらにこうべを垂れて黄金色に色付けば収穫の時です。青く晴れ渡る秋の空と、黄金色に染まった水田のコントラストは、日本の原風景であり、見る者の心を温かく包み込みます。



柏崎市
人　口:8万6833人（2015年国勢調査）
世帯数:3万3560戸（2015年国勢調査）
面　積:442.03平方キロメートル（2014年10月1日時点、2015年3月6日国土地理院公表）

心優しく、世代を継ぐ祈りと喜び

稲作をはじめとした農業、工芸や工業などのものづくり、さらには家族、コミュニティ、まちづくりは、自然の恵みを得るだけでは成り立ちません。そこに住み暮らす人々の心情や覚悟、さらに行動や挑戦があって初めて形になります。心優しく、世代を継ぐ祈りと喜び――。柏崎に住み暮らす人々のそんな思いを強く感じさせるのが、胞姫（よなひめ）神社です。安産や子授かりの神社として長く親しまれてきたこの神社は、世代を継ぐ祈りと喜びの象徴に映ります。神社の名称である「胞」は胞衣（えな）のことで、生まれてくる胎児を包む膜や胎盤を指しています。伝統芸能の能に現れる翁がかぶる薄い衣も胞衣とされ、誕生や再生の象徴と理解されています。

胞衣によって包まれた姫は、まさに心優しく、世代を継ぐ祈りと喜びの対象であり、柏崎の人々が大切に育んできた宝物なのです。そんなお姫様が二人、柏崎で新たに生まれました。それが柏崎市認証米「米山プリンセス」と新潟県産イチゴ「越後姫」です。固有の自然と風土に囲まれ、この地に住み暮らす人々が生んだ〝宝物〟と言えます。